

## 放課後等ディサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 5 年 5 月 16 日

公表:令和 6 年 5 月 20 日

事業所名: キッズサポートてんぱく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		・適切です。	・開かれた空間を引き続き維持していくため、物の配置や高さ等に気を配り、支援を行ってまいります。
	2	職員の配置数は適切である	6		・突然の病欠などでも対応できるように入員の拡充に努めています。	・配置数のほか、スタッフのキャリアアップが図れるよう経験者や有資格者と若年次スタッフのバランスを考慮しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	・環境の改善に努めています。	・入り口やトイレ前に段差があるため、改善のための手段を検討しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		・朝礼・終礼を実施する事で毎日職員間で情報を共有し、業務に努めています。	・業務改善をはかるのに若年層の意見を取り入れるべく、発言のしやすい開かれた職場環境を整備してまいります。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・毎年実施しています。	・保護者等の意向を把握し、業務改善に取り組んでいます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		・毎年実施し、自社のホームページ及び名古屋市子ども発達支援サイト「てっぷサポート」にて公開しています。	・これからも継続していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6	・現在、検討中です。	・導入に向けて検討中です。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・社外、社内研修を通じて研修を行い、職員の資質の向上に努めています。	・月次で行っている会議内で研修を行い、スタッフへの目標付けや仕事の責任とやりがいについて理解を深めております。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成している	6		・職員間で支援会議を行い、そこで出した意見を踏まえて支援計画を作成しています。	・これからも継続していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		・アセスメントシートを使用し、状況を把握しています。	・毎年アセスメントシートの内容を確認し、その都度適した項目を検討しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・活動プログラムの立案時はスタッフ全員で意見交換をし、利用者様への支援が効率的且つ円滑に進められるよう協議を行っています。	・各スタッフの持ち味が活かせるようなプログラム作りと、将来的に一コマのクラスを担当できるようプログラムに計画性を持たせています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・子ども達が飽きないように工夫して様々な活動を行っています。	・利用者の”やれるようになった！”の幅を広げるために、新しいプログラムの導入を随時行い、また現行のプログラムをブラッシュアップするための研究と実支援前の意見交換会を行っております。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		・1人ひとりに合わせた内容を考えて実施しています。	・利用者や保護者の方からも好評を得ているので、更に良い活動が行えるように工夫していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等ディサービス計画を作成している	6		・個別に必要なことと、集団の中での身につける社会性を判断し、両方取り入れています。	・これからも継続していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		・それぞれが役割を確実に把握できるようにしています。	・これからも継続していきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		・対策まで立てています。	・これからも継続していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・統一したルールで行っています。	・事が起きた時だけでなく、気づきがあった時点で利用者の連絡帳や社内での共有事項の振り返り表に記入できるように努めています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等ディサービス計画の見直しの必要性を判断している	6		・6ヶ月の間に一度、モニタリングを行っています。モニタリングをもとに計画の継続や更新等の見直しをしています。	・利用者の障がい特性をより理解したうえで個別支援計画を立案する様、努めています。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	6	・若年次スタッフに向け、読み解くのが難しいガイドライン総則の理解を深める活動を行っています。	・総則の基本活動の理解によって、より厚い基本活動を行えるため、全スタッフのより深い知識と理解に努めてまいります。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	・児童発達支援管理責任者が参加しています。	・これからも継続していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	・その都度、連携を取るように対応しています。	・これからも継続していきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	・現在医療的ケアが必要なお子さんをお預かりしていません。	・今後、利用があった場合に備えて情報を集めていきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	・必要があればおこなっていきます。	・なかなか聞き入れてもらうことが難しいため相互理解に至っていません。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	・必要があればおこなっていきます。	・学校や障害福祉サービス事業所等との情報を共有し、スムーズにおこなえるように準備していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	・昨今対面での打ち合わせが少ないので、一度の機械で多くの情報を頂けるよう、効率化を図っております。	・ZOOMなど遠隔でも連携やご助言が頂けるように環境を整備してまいります。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	2	・公園やお出かけにて交流する機会があります。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		6	・多忙のため数回の参加にとどまっています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	・連絡帳や送迎時にお伝えしています。必要に応じて電話等でも連絡を取るようにしています。	・モニタリングの機会だけではなく、普段の利用の際にも成長の報告や課題に対する意見交換を細やかに行えるよう徹底してまいります。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレンツ・トレーニング等の支援を行っている		6	・プログラムとしては行っていませんが、個別の相談に応じ、支援しています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	・契約時に説明しています。	・各スタッフが運営規定、支援の内容、利用負担額等について十分な理解をしたうえで説明が行えるよう、理解を深めてまいります。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	・相談があった場合は送迎時や電話にて対応し、職員間で情報共有しています。	・これからも継続していきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	3	・夏祭りなど、イベントを通して保護者同士が関わる機会を作っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があつた場合に迅速かつ適切に対応している	6	・苦情があった場合には第一に内容の理解に努め、問題の解決に向け速やかに対応させていただいております。	・これからも継続していきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	・現在は発信できていませんが、今後発信していくように努めています。	・より多くの方に見ていただけるように周知します。
	35	個人情報に十分注意している	6	・全職員が秘密情報の保持について誓約書を書いています。	・定期的に個人情報の取り扱いについて職員間で確認しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	・構造化や情報の図示などをしています。	・配慮事項を職員間で共有し、連絡ミスがないようにいたします。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6	・現状、コロナ感染予防の観点から行っておりませんが、地域に根付いた運営を行う方法を現在模索しております。
					・広く理解を頂けるために開催の方法について今後検討してまいります。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	・定期的に作成し、訓練も実施しています。	・定期的に保護者の方にマニュアルについて周知するよういたします。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	・毎月、非常災害を想定した避難訓練を実施や防災についての学習を行っています。	・今まで以上に子どもたちが非常災害を感じ、考えられるような訓練や学習を考えていきます。 ・危険個所がないかの確認を定期的にします。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	・虐待になる行為について職員間で確認しています。	・今後も定期的に職員間で虐待になる行為を確認し、意識の向上を図っていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	・身体拘束について職員間で確認しています。現在該当する利用者はいません。	・必要に応じて保護者への事前説明をしっかりと行い、支援計画に記載します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	・保護者からアレルギーの情報をうけています。	・必要であれば医師の指示書をいただくように対応します。 ・職員間での情報共有をより進めています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	・各スタッフがすぐに手に取って振り返れるように事業所内の目につく場所に格納してあります。	・継続していきます。